Sunday Zoom Up
ズームアップ

クロモジ加工 充実の香味

高齢者ら支援活動拠点「UNEHAUS」(長岡・栃尾)

長岡市栃尾地域の一之貝集落にある高齢者、障害者の支援活動拠点「UNEHAUS（ウネハウス）」で、利用者たちが薬用酒にも使われる樹木「クロモジ」を加工した商品作りに取り組んでいる。運営する認定NPO法人は、過疎高齢化が進んだ中山間地域で、障害者や住民のやりがいを創出し、よりどころにしようと模索している。

（長岡支社・金子省吾）

「くろもじ工房」の看板を掲げた作業場には、薬と柑橘系が合わさったような香りが漂う。利用者や近所の高齢者が飛び出たクロモジの枝を、はさみで切っていた。枝はクロモジ茶の原料になる。約4年前から通う長岡市殿町3の岩滝哲也さん(63)は「やりがいがあるし、結構充実してます」と作業に没頭した。

クロモジは、一之貝や隣接する集落の山に自生するクスノキ科の樹木。2015年に、薬用酒「養命酒」の製造会社に提供を始めた。高価なアロマ商品として都内で販売されていると知り、自分たちでも活用しようと、18年に商品開発に乗り出した。

クロモジを使った茶と、ミストスプレーを販売している。茶は、乾燥させて細かく砕いた枝と葉をパックにした。枝からオイルやエキスを抽出して作ったスプレーには、除菌やリラックス効果があるとされる。

自生樹活用、仲間と一体感

(上)商品に加工するクロモジの枝を切るウネハウスの利用者ら＝長岡市一之貝
(下)ウネハウスの利用者が製造した茶とミストスプレー

ウネハウスは、認定NPO法人「UNE（ウネ）」が2階建ての空き家を改装し、11年に開設した。現在、市内外から15人の利用者が通い、農作業や商品製造に携わっている。活動は平日午前9時～午後4時で、月に1万5千～2万円を支給する。昼食は一之貝集落で暮らす女性らが作り、利用者、職員、時には外部からも人が訪れ、みんなで食卓を囲む。

地元で1人暮らしの80代女性は週に1回作業を手伝い、昼食を取る生活を9年近く続けている。「誰かと話したり、手を動かしたりしているから、健康でいられていると思う。仕事があるのは張り合いになるね」とほほ笑む。

ウネハウスではどぶろく造りや畑仕事、増築作業、雪下ろしなどさまざまな仕事をつくり、選択肢を増やす。クロモジの加工もその一環だ。代表の家老洋さん(62)は「あれして、これしてと指示するのではなく、好きな仕事を選んでもらうのが大事。ストレスを感じることなく楽しく働いてもらいたい」と語る。

15年に始めたどぶろく造りでは、利用者が原料となるコメの栽培から手掛け、19年には全国どぶろく研究大会で優秀賞を受賞した。ウネは賛助会員の数などの基準を満たし、市内で唯一の認定NPO法人となり、活動の幅が広がった。

ウネハウスは今年、開設10年目の節目を迎えた。家老さんは「行政が対応できない、社会的に弱い人たちのために助け合いの場でありたい。今後は若い人の手を借り、さらに活動を広げたい」と展望を語る。

クロモジ茶とミストスプレーは、ウネハウスで取り扱うほか、長岡市栃尾宮沢の道の駅「R290とちお」などで販売している。

問い合わせはウネ、0258(86)8121。